



かしわの

No 4 9 3 (1 2月号)
令和3年 11月30日
調布市立柏野小学校
校長 浅野 正 臣

<http://www.chofu-schools.jp/kasiwano-sho> mail:kasiwano-sho@chofu-schools.jp

かしわの発表会(展示)から学んだこと

副校長 八木橋小百合

11月15日(月)から始まった「かしわの発表会(展示)」には、開催6日間で、延べ999人の保護者や地域、来賓の方々が参観してくださいました。感染症対策の下、いろいろな制限があった発表会でしたが、参観された皆様には、ご理解・ご協力を頂き本当にありがとうございました。

子供たち一人一人の作品には、いろいろな工夫や思いが込められていました。それを伝えてくれたのが、6年生による「子ども学芸員」でした。6年生は、4月の段階から「学芸員プロジェクト」を立ち上げ準備をすすめてきました。取組内容としては、

- ① 事前準備には何があるか調べる
- ② 目的に向かって、自分のペースで準備する
- ③ 自分で紹介文を考える
- ④ 本物に触れる(武者小路実篤館の学芸員さんの話を聞くこと)
- ⑤ 下級生や先生とのやりとりをする
- ⑥ 活動を最後までやり遂げる

でした。子ども達は、先生たちの支援を受けながら各自が取り組み、本番では、自分の言葉で生き生きと自分の選んだ作品を紹介していました。私は、その6年生の心のこもった説明を聞いて、作品に対する理解が深まり、自分の心が温かくなっていくのを感じました。

大阪市立大空小学校初代校長の木村泰子先生は、著書の対談の中で『学力には、「見える学力」と「見えない学力」がある。今の子ども達は、10年後の多様性社会を他者と共存しながら生きていく力を身に付けていかななくてはならない。また、すべての子どもに必要な「見えない学力」とは、人を大切にする、自分の考えをもつ、自分を表現する、失敗を恐れずチャレンジする力を養う

ことである。「見えない学力」を育てていくと「見える学力」も伸びていく。』と言われていました。(一部抜粋 学校の未来はここから始まる:教育開発研究所)

かしわの発表会では、「学芸員プロジェクト」の取組を通してこの「見えない学力」を育て、発揮している6年生の姿がありました。

緊急事態宣言が解除されたこともあり、ある程度、人とかかわりも増えてきました。コロナ禍前は、「人とかかわってよかった」という体験が、こんなにも貴重な体験になるとは誰も思わなかったのではないのでしょうか。だからこそ『かしわの発表会(展示)』は「人は、人とかかわりの中で育つ」ということを再確認する機会となりました。

さて、明日から12月、2学期もまとめの時期に入ります。「できた」か「できなかった」の見える学力だけでなく、子ども一人一人の見えない学力にも目を向け、成長を認め励ましていきましょう。今学期も本校の教育活動にご理解・ご協力を頂きありがとうございました。

受賞おめでとうございます！

第32回伊藤園お〜いお茶新俳句大賞
〈佳作特別賞〉

星空に 二匹の犬が うかんでる (加藤 千尋)
松かさば ふしぎいっぱい つまってる(森 里紗)

*みなさんが買ったお茶のラベルにのっているかもしれません。探してみてくださいね。